

1: 出席者

加藤^a・大西^b・千葉・片山・能登・平林・岡部・大塚^c・吉田^c・セルゲイ^c・鈴木^c・須田^{c,d}
(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- メンバー確認
 - 加藤(委員長)・大西(議長)・千葉・片山・能登(年次報告担当)・平林(年次報告担当)・岡部・升井
 - 升井氏が新たに管理運営委員会メンバーとして加わった。
 - オブザーバー：大塚・吉田・セルゲイ・鈴木(書記)・須田・簀口
- VBL との共同研究について(加藤)
 - COE のメンバーに鈴木が加わった。
 - B. Giraud ともう一名を外国人招聘枠として申請した。
- 原子力学会で検索・作図システムの現状報告を行なった。(大塚)
- 検索・作図システムで実験データと評価データの重ね描きが可能になった。(須田)
- ワーキンググループの議事録の報告。レポート(ntx-wg 2004-30,31,2005-1,2 参照)(能登)

3: 議論

- 今後の活動方針について
 - 核データの評価について活動を進める必要がある。
 - 概算要求で、常勤の研究者が業務に携わる必要があるとの主張を行なった。
- 国際核データ網で採録対象論文を回覧する際の著作権問題について
 - 論文の PDF ファイルを認証つきで IAEA から外部に配布することが検討されている。
 - ◇ いくつかの問題が議論された。契約上問題があるかどうか調べた上で回答する。
- 助言委員のメンバーについて
 - 実験データの収集効率が向上することも期待して、新規に助言委員を加えたい。
 - 現助言委員には年度始めに委員を継続してもらえるかどうか問い合わせ、辞退されない限り継続してもらおう。
- INS の核研レポートとして図書館に保管されている数値データの採録について
 - INS シリーズは全部で 186 冊あり、論文に掲載されているものは半分程度である。
 - 論文に図が掲載されており、数値データがレポートに残っている場合は採録する。
 - 論文に掲載されていないが採録可能な数値データについては、優先順位を下げ、試験的に採録を行なう。
- 新規コードについて
 - DBL(W), DBL-DIFF-XSECTN(V) (新規)

- ◇ 承認とする。
- AYY – Tensor analyzing power $A(yy)$ (展開形の修正)
- (DELTA-)IT11 – (Error in) Vector analyzing power $iT(11)$ (展開形の修正)
- (DELTA-)AY – (Error in) Vector analyzing power $A(y)$ (新規)
- (DELTA-)ANALPW – (Error in) Analyzing power (廃止 (H, V-7))
- (DELTA-)VCTR-ANALPW – (Error in) Vector analyzing power (廃止 (H), V型では残す)
- (DELTA-)TNSR-ANALPW – (Error in) Tensor analyzing power (廃止 (H), V型では残す)
- (DELTA-)AXZ – (Error in) Tensor analyzing power $A(xz)$ (新規)
- ◇ 上記をすべて承認とする。LEXICONを整備する
- TRPL(W), TRPL-DIFF-XSECTN(V) (新規)
- ◇ 承認とする。
- HPGE : Hyperpure Germanium detector (新規)
- ◇ 承認とする。
- 年次報告書の提出期限が過ぎているので、5月6日までに提出してほしい。
- SPES, SPES-Jに関する報告書は一つにまとめる。著者：須田、内藤、大塚
- McLane Symposiumに関する報告書の冒頭部分の執筆担当者：加藤
- 検索・作図システムのデモンストレーション

4: 次回

2005年5月16日 18:30~

1: 出席者

加藤^a・大西^b・千葉・片山・能登・平林・岡部・大塚^c・吉田^c・セルゲイ^c・須田^c・鈴木^{c,d}
(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- 国際核反応データ網 (NRDC) で採録対象論文を回覧する件について (加藤)
 - 契約上問題がある
- ワーキンググループ報告(第 1-6 回) (能登)
- デジタイザのベンチマークテストの結果報告 (大塚)
- NRDF 辞書の更新 (D9006) (大塚)

3: 議論

- 名称について
 - 現在議事録では”荷電粒子核反応データベース運営委員会”を使っているが、“荷電粒子核反応データファイル管理運営委員会”を用いる。
- 年次報告への DARPE manual の掲載について (承認)
- NRDF の数値データ欠損を修復した (承認)
- “j”をフリーテキストにおいて使用可能とする (承認)
- チェックの効率化のため F 型コードヘクラスを導入する (承認)
- 新規コードについて (以下の 5 コードを承認)
 - (DELTA-)AXZ (H)
 - (DELTA-)TOT-SPIN-TRNSF (H)
 - DELTA-MASS-EXCS (H)
 - MOM-EMT-CM (H)
 - THTC-INTRM (H,F)
- 修正コード (以下を承認)
 - 26 個のコードに関して展開形の typo を修正
 - MASS-EXCS : 単位 "EV" の追加
 - DELTA-K-CONV-COEF : V 型から H 型へ
 - (DELTA-)LEG-0 : 展開形を "Legendre coefficient-0" へ変更
 - DEFM-PARA-6 : 展開形を "64-pole deformation parameter" へ変更
 - Obsolete コードの削除 (使われていないコード、もしくは他のコードへ置き換えられ、現在使われていない 73 個のコードについて)

4: 次回 2005 年 6 月 13 日 18:30~

1: 出席者

加藤^a・大西^b・千葉・能登・平林・岡部・大塚^c・吉田^c・セルゲイ^c・須田^c・鈴木^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- ワーキンググループ報告(第 7-9 回、別紙参照) (能登)
- 7 月 5 日(火) に片倉氏(原研核データセンター長)に講演して頂く (加藤)

3: 議論

- 年報について
 - DARPE の詳細マニュアル(英語) はページ数節約のため 2004 年度の報告書に含めないこととする。詳細マニュアルの URL を簡易マニュアルに記述する。
 - 報告書で使われている名称について
実験研究者、はがきの送り先などの対外的な名称としては、日本荷電粒子核反応データグループ(JCPRG) を用いる。
- NRDF マスターファイルの修正について
 - 誤ってコードされた INC-ATH を INST-ATH に置き換えたことを承認する。
(D1490,D1552,D1557,D1578,D1579,D1583)
- 新規コードについて (以下の 1 コードを承認)
 - A (H 型辞書) : Mass number
- 修正コード
 - TOT-XSECTN : 現在 Obsolete であり使われていないので H 型辞書からは削除 (PHQ などに使用できるように、V 型辞書には残す)
SIGMA が Total cross section で、XSECTN が cross section と展開されており、混乱が生じる可能性がある。継続議論とする。
 - (DELTA-)POL-TRNSF : (Error in) polarization transfer : H 型辞書からは削除 (ヘッダとしては、より限定的な物理量を使用する。PHQ などに使用できるように、V 型辞書には残す)(承認)
- D1886, EWSR : 展開形やコードに fraction という言葉が必要という意見があったがワーキンググループでは入れないという判断を行なった
これまでの EWSR の使い方を調査し、その結果を見て判断する (差し戻し)
対処法としては以下が考えられる
 - ◇ EWSR のコードを EWSR-fraction とする
 - ◇ EWSR の展開形を Energy weighted sum rule fraction にする

4: 次回

2005 年 7 月 11 日 18:30~

1: 出席者

加藤^a・大西^b・片山・能登・平林・岡部・升井・大塚^c・吉田^c・セルゲイ^c・須田^c・鈴木^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- VBL 招聘制度により Giraud 氏が来札中である。(7/15-8/15) (加藤)
- 総長経費は不採択であった。(加藤)
- SPES 統合システムで、実験データの 3 次元プロットが可能となった。(須田)
- 核データ研究会で統合システムについてのポスター発表を行なう予定である。(須田)
- 2005 年度の助言委員の名簿を作成中である。(吉田)
- NRDC2004 meeting の資料の Annex 3 でとりあげられた PR/C に関する採録状況について (吉田)
 - JCPRG に関連するのは 13 編。1 編は、他のセンターが採録済 (JCPRG で了解済み)。残りの 12 編のうち半分は送信済み。残りの 4 つはレフェリー中、2 編はレフェリー待ち。
- 辞書ワーキンググループ報告 (第 10-14 回、詳細については資料参照) (大塚)

3: 議論

- 夏休み期間の採録計画について、以下のように送信できるようにレフェリー作業を進める。(承認)
 - D1876-D1900、8 月 13 日までに送信予定。
 - D1901-D1920、9 月 16 日までに送信予定。
 - D1921-D1933、10 月までに送信予定。
- 新規コードについて (以下の 2 コードを承認)
 - CSI (V 型 Class 5): 展開形は CsI crystal
 - DELTA-DEFM-PARA (H 型): 展開形は Error in Deformation parameter
- 修正コード
 - V 型 Class 11 (光学ポテンシャル) のコード (すべて) を H 型へ移す。
 - ◇ コードの重複を確認して、重複がなければ承認する。
 - EXC-ENGY-EMT (H 型 Class 10) の展開形 "Excitation energy of outgoing particle" の 'outgoing' を 'emitted' へ変更する。[Ref: EXC-ENGY-EMT (F 型)] (承認)
 - DELTA-TOT-WDTH, DELTA-TOT-KIN-ENGY, DELTA-EXC-ENGY (H 型) の Unit を MEV から EV へ修正する。(承認)

4: 次回

2005 年 9 月 12 日 18:30~

1: 出席者

加藤^a・大西^b・能登・平林・岡部・大塚^c・吉田^c・セルゲイ^c・須田^c・鈴木^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- 辞書ワーキンググループ報告(第 15 回、詳細については資料参照) (能登)
- 年次報告が完成した。(能登、平林、吉田)

3: 議論

- Technical meeting に提出する progress report において管理運営委員会の英訳を executive committee から steering committee とし、今後この名称を用いることとする。(承認)
- EWSR のコードと展開形に関する件について (承認)
 - EWSR のコードの展開形を Fraction of the energy weighted sum rule value とし、今後の採録で使用を可とする。
 - EWSR の定義については LEXICON で説明することとする。
- 元素記号が確定していない超重元素の採録方法について(継続)
例えば、質量数 278 に対しては、
 - 278X + コメント
 - X + コメント
 - 278UUT (+コメント)のような採録が考えられる。
- 定義されているが使用されていない以下のコードを削除する。(承認)
XXXX(V 型 class 7), Z-COMP(H 型, V 型 class 7), S-CMPD(H 型, V 型 class 7),
S-EMT(H 型, V 型 class 7), S-PRJ(H 型, V-7 型), S-RESD(H 型, V 型 class 7), OBS-PARTCL(H 型),
N-PRJ(H 型), N-EMT(H 型), N-COMP(H 型), FRAG-ENGY(H 型), EMT-ENGY(H 型),
COULOMB-ENG-DIFF(H 型), COS-MIN,-MAX(H 型), TRANSN-ENGY(F 型),
J-PTY-COINC-INITL(F 型),
J-PTY-COINC-FINAL(F 型), ISOSPIN-(COINC-)FINAL(F 型), ISOSPIN-(COINC-)INITL(F 型),
EXC-ENGY-COINC-FINAL(F 型), EXC-ENGY-COINC-INITL(F 型),
DELTA-INC-ENGY-RANGE(F 型), ENGY-EMT-LAB-GAMMA(F 型), TRNSF-MMT(H 型),
MOM-CM(H 型), TRNSF-MMT-CM(H 型), PARTCL-EMT(H 型),
DELTA-DEFORM-PARA-2(H 型), SURF(W 型), MULT(W 型, V 型 class 7),
MULTIPOL(V 型 class 7), VCT-ANALPW(V 型), SPIN-CORRL(H 型)
- D147, D1530 でのみ使用されている RECL-DISTANCE(H 型, V 型 class 7),
D129, D1490 でのみ使用されている POPLTN(H 型, W 型, V 型 class 7),

D123 でのみ使用されている EFCTV-CHRG(H 型) を削除し、
当該コードをコメントとして採録の中に取り込む。(承認)

- D143 でのみ使用されている GATING-GAMMA(H 型),
D1301, 1402 でのみ使用されている ENGY-GAMMA-COINC(F 型) を削除し、
当該コードを ENGY-GAMMA に置き換える。(承認)
- 辞書には定義されていないが、すでに採録で使用されている COS-LAB-MIN,-MAX(F 型) を追加
する。(承認)
- COS(H 型, obsolete) を削除し、COS-CM, COS-LAB に置き換える。(承認)
- DEFM-PARA(F 型) の展開形を Quadrupole-deformation parameter から、Deformation parameter と変
更する。(quadrupole parameter については DEFM-PARA-2 を使用する)(承認)
- MLTPOL (Multipole moment) の置き換えとして MLTPOL-MMT(V 型 class 7, Multipole moment)
を新規に作成する。(承認)
- QDPL-DIFF-XSECTN(V 型 class 7, Quadruple differential cross section) を新規に作成する。(承認)

4: 次回

2005 年 10 月 24 日 18:30~

1: 出席者

加藤^a・大西^b・片山・能登・大塚^c・吉田^c・セルゲイ^c・鈴木^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- 天体核物理の科研費(特定領域)に参加する。(加藤)
- IAEA 会議報告。(大塚)
 - 議事録のドラフトが完成しているので、変更がある場合は 11 月末まで。
 - ロシアより崩壊データに関する共同研究を提案された。
- 辞書ワーキンググループ報告 (第 16-19 回、詳細については資料参照) (能登)

3: 議論

- D1540 の fig. 2, 3 の誤差の取り方について (承認)
 - 対数尺度で上下非対称の誤差に見えるが、統計誤差であるので、数値としては上の誤差を採用し対称誤差として採録する。
 - この状況に関する情報をコメントとして入力することとする。
- EXFOR の文献コードに人名が使われているコード (データのコンパイルレーションなどの単行本) が NRDF の辞書に自動的に追加、更新されている。(承認)
- gamma の Intensity については相対的な強度が測られているもののみであるため、INTNSTY-GAMMA を使うことにする。(INTNSTY, REL-INTNSTY-GAMMA は obsolete にする) (承認)
- 著者の使う用語と NRDF での定義が違う場合の対応について (古い analyzing power, polarization に関して)
 - 現在のコードの定義にもとづいて採録を行なう。(承認)
- XSECTN の取り扱いについて (以下を承認)
 - 採録においては H 型に SIGMA, V 型に XSECTN を用いる。
 - SIGMA の展開形を total cross section から cross section に変更する。
 - 以下のコードを obsolete とする。(V="XSECTN", H="SIGMA" で採録)
 - ◇ DSIGMA/DA (V, H 型) : Isobaric cross section
 - ◇ XSECTN-LEVEL (V, H 型) : Cross section for individual final product
 - ◇ XSECTN-YIELD (V, H 型) : Cross section for overall yield
 - Total cross section, fission cross section, (total) reaction cross section に関しては利用システムで検索可能な状況にすることを旨とする。検索システムの更新後、次のような辞書更新を行なう。
 - ◇ TOT-XSECTN (V 型) : total cross section を obsolete とする。

- ◇ 核分裂断面積、反応断面積についての採録を以下のようにする。
 - 核分裂断面積は $RCT=A(a, \text{FISSN})$; $RTY=\text{FISSN}$; $V=\text{"XSECTN"}$; $H=\text{"SIGMA"}$ とし、 FISSN-XSECTN (V, H 型) を obsolete する。
 - 反応断面積 $RCT=A(a, X)X$; $RTY=\text{NON-ELA-SCATT}$; $V=\text{"XSECTN"}$; $H=\text{"SIGMA"}$ とし、 TOT-RCT-XSECTN , RCT-XSECTN を obsolete とする。
- ◇ Cross section の採録法については LEXICON で定義することとする。
- 以下のマスターファイルの修正を行なう。(EMIT の obsolete (EMT に変更) に伴う修正) (承認)

(D378 D781 D1127 D1129 D1165 D1235 D1375 D1408 D1445 D1446 D1448 D1449 D1450 D1451 D1452 D1453 D1459 D1461 D1464 D1466 D1473 D1474 D1475 D1476 D1477 D1479 D1481 D1482 D1484 D1495 D1548 D1549 D1550 D1551 D1552 D1553 D1557 D1577 D1585 D1586 D1587 D1588 D1678)
- Intensity に関連したマスターファイルの修正を行なう。(承認)

INTNSTY のコードを使っているファイルは 2 編を除き、gamma 線の INTNSTY を指しているので、INTNSTY-GAMMA に統一する。2 編については INTENSTY を DATA に置き換える。
- D1595, D1639, D1732 を以下の理由でマスターファイルから削除することが提案された。
 - D1595, D1639 : ${}^6\text{Li}(p,n){}^7\text{Be}$ の中性子データの論文 (中性子源としての荷電粒子反応であるという意見があるため継続審議とする)
 - D1732 : D1740 ですでに取られた論文 (承認)
- 新規コード
 - (DELTA-)KNN (H 型) : (Error in) Polarization transfer parameter $K(N'N)$
 - THTL-INTRM (H 型) : Scattering angle theta of intermediate nucleus in lab. system
 - B (V 型 クラス 14) : b (barn)
 - GE.O2 (V 型 クラス 8.3) : GeO_2
- 科研費のタイトルについて (承認)
 - “NRDF-A (Nuclear Reaction Data File for Astrophysics)” を用いることとする。
- IAEA の議事録について(承認),
 - 本来 Center head meeting で議論すべき内容が今回の technical meeting で議論されている点に関して JCPRG の意見を報告する。

4: 次回

2005 年 12 月 22 日 18:30~

1: 出席者

加藤^a・大西^b・千葉・岡部・平林・大塚^c・吉田^c・芦沢^c・須田^c・鈴木^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- セルゲイ氏が VBL COE 研究員を 12 月で退職し、1 月より黒河氏が後任に就く (加藤)
- 辞書ワーキンググループ報告(第 20-24 回、詳細については資料参照) (大塚)

3: 議論

- 励起関数に対する EXP セクションでの入射エネルギーの範囲の与え方 (承認)

Stacked target を使う実験で、加速器で加速したエネルギーと、標的核に入射するエネルギーが異なるような場合の採録法について

- 採録者は、エネルギーの範囲に関しては、標的核に入射するエネルギーから大体の数値を適当に入力し、デジタイザで数値を読み取った後に、読み取った値から正確な範囲を入力するという議論が ntX-wg で行なわれたが、管理運営委員会では大体の数値を採録で採用してよいという結論となった。

- 質量分析に用いた加速器の採録について (承認)

KEK の 12GeV シンクロトロン陽子を照射した試料を東大に運び、東大のタンデムでその試料をビームにしてタンデムで加速、質量分析して、核種生成量を測った論文の採録について

- シンクロトロンだけでなく、質量分析に用いた加速器についても採録を行い、フリーテキストにおいてそれぞれの用途を説明する。

- マスターファイルの置き換え (承認)

- DSIGMA/DA が obsolete になったので、(DELTA-)DSIGMA/DA を (DELTA-)SIGMA と置き換える。

[D853 (DATA,1), D1231 (DATA,1-24), D1240 (DATA,1-3), D1241 (DATA,1-3), D1242 (DATA,1-7), D1243 (DATA,1-6)]

- XSECTN-YIELD (V 型) が obsolete になったので PHQ, PHQS における XSECTN-YIELD を削除する。

[D100 (EXP,1-10), D169 (EXP,1-7), D181 (EXP,1-17), D184 (EXP,1-4), D202 (EXP,1-4), D222 (EXP,1-4), D318 (EXP,1,2), D344 (EXP,1-42), D346 (EXP,??), D370 (EXP,1), D400 (EXP,1-6), D471 (EXP,1-4), D476 (EXP,1-9), D489 (EXP,1-2), D490 (EXP,1-13), D520 (EXP,1-13,1-3), D544 (EXP,1-7), D569 (EXP,1-3), D746 (EXP,1-5), D749 (EXP,1-27), D808 (BIB,1,2, EXP,1,2), D828 (EXP,1-63), D982 (BIB,1-8, EXP,1-8)]

- XSECTN-YIELD (H 型) が obsolete になったので XSECTN-YIELD を SIGMA に変更する。

[D746 (DATA,4)]

- 新規コード(承認)
 - MOM-EMT-LAB-MIN/-MAX : Momentum of emitted particle in lab. system (lower/upper limit)
 - X (V 型クラス 13) : Unidentified object
 - DELTA-INC-MOM-CM (F 型) : Error in Incident momentum in c.m. system
 - DELTA-INC-MOM-LAB (F 型) : Error in Incident momentum in lab. system
 - MCI/UA/HOUR (V 型クラス 14) : mCurie/uA/hour
 - COS-CM-MIN,-MAX (H 型) : Cosine in lab. system (lower, upper limit)
 - COS-LAB-MIN,-MAX (H 型) : Cosine in lab. system (lower, upper limit)
 - TRNSF-J (F 型) : Transferred J
 - EV*B (V 型クラス 14) : eVb
- 修正コード(承認)
 - XSECTN-YIELD (V 型クラス 7) : Cross section for overall yield 削除 (未使用)
 - (DELTA-)DSIGMA/DA (H 型) : Isobaric cross section 削除 (未使用)
 - RIA (V 型クラス 16) : Relativistic Impulse Approximation
Typo の修正 (mpule -> impulse)
 - COS-MIN,-MAX (H 型) : Cosine in lab. system (lower, upper limit) 削除
 - (DELTA-)INTNSTY (H 型) : (Error in) intensity 削除
(gamma 崩壊の時には (DELTA-)INTNSTY-GAMMA を用いる)

4: 次回

2006年1月20日 18:30~

1: 出席者

加藤^a・大西^b・片山・能登・平林・大塚^c・合川^c・吉田^c・須田^c・黒河^c・鈴木^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- 来年度の COE (現在の 3 名) が決定した。(加藤)
- 外国人招聘で J.Cseh 氏を招聘する(加藤)
- 須田氏が 3 月で VBL の COE 研究員を退職し、東大へ異動する。(加藤)
- 辞書ワーキンググループ報告 (第 25-31 回、詳細については資料参照) (大塚)

3: 議論

- 年報の構成 (承認)
 - (題名、執筆者、ページ数)
 - 巻頭言 (昨年度は能登) 片山 (1p)
 - 新 GSYS のマニュアル 鈴木 (15-20p)
 - グラフ数値読み取りシステムの国際ベンチマーク 大塚+鈴木 (7p)
 - 辞書作業部会 (NTX-WG) 報告 能登+大塚+加藤 (20p)
 - 2005 年 IAEA 核反応データセンター会議報告 大塚 (16p)
 - 2005 年度に JCPRG から配信された EXFOR ファイル 大塚+加藤 (9p)
 - 2005 年度に JCPRG から配信された CINDA ファイル セルゲイ+黒河+大塚 (5p)
 - ND2004 の論文再録 青山+大塚 (9p)
 - DARPE 利用マニュアル 大塚+セルゲイ (23+24p)
 - 資料: 2005 年度入力データ 吉田+加藤 (10p)
 - 資料: 2005 年度 JCPRG 活動日誌 吉田 (7-8p)
 - 略語一覧 大塚 (1p)
 - 日本荷電粒子核反応データグループ (JCPRG) 吉田 (1p)
- ¥¥Data の括りだし (承認)

従来、¥EXP セクションでは、複数のデータセットに渡って共通な項目名=項目値;の文が存在する場合は、これを複数のデータセットに関して、¥¥EXP,1[2 という形で括りだしてきた。これと同様に、¥¥DATA セクションに関して、¥¥DATA,1[2 というような形で括りだすことが論理的には可能であり、この括り出しを、検索システムでは特定データセットの表示の際には集積して表示する、という条件(既に DAPRE で実装)のもとで認める。
- 2 次ビームを用いた実験の採録方法 (承認)

2 次ビームを用いた実験の採録については、2 次ビームを生成するための 1 次ビーム部分の反応や加速器の採録をどのように行うか、という問題があり、長らく採録方法が定まっていなかった。2 次ビームによって得られた結果がビームの製法に依存するのかどうかを、中性子、中間子、不安定核ビームを用いた 10 例の内外の採録論文を取り上げ 2 次ビームに関して何を言及しているかについて調査報告が行なわれた。

| 番号 | 出版年 | 機関 | 反応 | 物理量 | 備考 |
|--------------|------|-----|-----------|-----|--------------------------------|
| D1639 (NRDF) | 1992 | TIT | n, g | CS | Neutron capture by Sulphur-32 |
| D1806 (NRDF) | 1997 | IPC | 11Be, inl | DA | Coulomb excitation |
| D1840 (NRDF) | 1983 | KEK | pi-, el | DA | |
| D1895 (NRDF) | 2004 | IPC | Be, fus | SIG | Evaporation residue production |
| D1914 (NRDF) | 2004 | KEK | pi-, K+ | DAE | |

| | | | | | |
|---------------|------|-----|----------|-----|----------------------------------|
| D1924 (NRDF) | 2004 | IPC | 17B,X | SIG | Reaction cross section |
| D1926 (NRDF) | 2005 | IPC | 17C,n | SIG | Neutron removal cross section |
| C1148 (EXFOR) | 1992 | MSU | 11Li,sct | DA | Quasi elastic |
| D0132 (EXFOR) | 1999 | DUB | 6He,... | DA | Elastic, 5He, 3He, alpha channel |
| D0245 (EXFOR) | 1996 | GAN | 6He,6Li | DA | |

いずれも、ビームの製法に関して、ビームの分解能、強度、不純物除去などに関する記述はあるが、製法に起因する誤差、製法の妥当性を確認するための他のビームを用いた実験との比較が与えられた例はなかった。これらを踏まえて、2次ビームの製法が結果に与えるということが論文で特に示唆されていない限り、以下のような方針を採ることとする。

- 1) 二次ビーム実験の場合、NRDFは二次ビームを「入射粒子」と定義する。
- 2) RCTには、二次ビームを入射粒子のフィールドに書く。
- 3) ACCは、加速した粒子が、一次ビームか、二次ビームかが分かるようにする。
- 4) RIビームの分離器 (projectile fragment separator) はコード PRJFSをACCの値とする。

● マスターファイルの修正に関して (承認)

明らかなケアレスミスに関しては、複数の JCPRG メンバー (ミスの発見者 + 他の一人) の確認がとれれば、修正を行うことを可能にする。ただし、かならず後の管理運営委員会において報告することとする。

● Journal of Physical Society of Japan, Supplement のコードと関連するマスター修正 (承認)

上記雑誌のコードを JPJ/S とし、関連して D0005 の REF を JPJ/S とすることとする。

● D#のないファイル2件のマスターファイルの修正 (承認)

D0186 と D0681 という名前の二つのファイルに関して D#レコードが抜けていた。いずれも論文のコピーとファイルの中身の照合から、D#=D186, D#=D681 として問題ないことをチェックしたので、これに関するマスターファイルを修正する。

● 重複採録1組に関するマスターファイルからのファイル1件の削除 (承認)

D1131 と D1565 は同じ論文の採録であるが、D1131 は著者からもらった数値が格納されており、D1565 はデジタル化した数値が格納されているので、D1565 を削除して、D1131 をマスターに残すこととする。

● 2JPNJPN の個別機関コードへのマスターファイル修正 (承認)

足利工業大学 (2JPNAIT)、京都教育大学 (2JPNKUE)、国際基督教大学 (2JPNICU)、千葉工業大学 (2JPNICIT)、東京都立大学 (2JPNMTU)、徳島大学 (2JPNTKS)、長崎総合科学大学 (2JPNNIT)、山形大学 (2JPNYMG) のそれぞれについて 2JPNJPN の部分をそれぞれの機関コードとするようにマスターファイルを修正する。

D0662 D0735 D0749 D0770 D0774 D0778 D0782 D0838 D0839 D0932 D0933 D1089 D1118 D1131 D1133 D1140 D1146
D1150 D1151 D1152 D1155 D1164 D1186 D1190 D1200 D1203 D1208 D1233 D1253 D1255 D1280 D1283 D1284 D1285
D1306 D1307 D1310 D1313 D1314 D1316 D1317 D1318 D1326 D1332 D1351 D1353 D1354 D1370 D1375 D1377 D1390
D1408 D1417 D1437 D1440 D1442 D1459 D1461 D1473 D1474 D1475 D1484 D1496 D1548 D1550 D1561 D1575 D1580
D1582 D1585 D1585 D1593 D1629 D1631 D1638 D1641 D1643 D1664 D1666 D1667 D1693 D1695 D1696

● 構文エラーなどに関するマスターファイルの修正 (承認)

以下はエラーチェックによって見つかったエラーである。これらに関してマスターファイルを修正する。

➤ 使用不可な文字

(例 TO 39 瀑 ROM THE 4HE BEAM, (ANTIP/PION-)**10^-3, D#)D1655;)

D0104 D0285 D0624 D0665 D1351 D1395 D1477 D1481 D1484 D1489 D1516

➤ 73 カラム以上のレコードを折り返した

D1194 D1274

➤ データストリーム構造の異常(制御文の欠落、重複、書式異常など)

(例 ¥¥DATA,1,; ¥¥,EXP,8[9; ¥¥EXP.1[3,6;)

D0129 D0133 D0143 D0206 D0237 D0258 D0337 D0339 D0346 D0354 D0388 D0416 D0424 D0438
D0442 D0446 D0466 D0475 D0476 D0491 D0498 D0500 D0526 D0592 D0605 D0623 D0661 D0662
D0666 D0681 D0749 D0822 D0892 D0916 D1177 D1124 D1444 D1468 D1489 D1491 D1552

➤ 構文エラー 1 ~ /* */のない自由文、無意味な文字の混入、許されない空白

(例 /@*24@*/ THTL=90DEG;F INC-ENGY-LAB=800MEV; ERS-PRJ=X KEV;)

- D0038 D0126 D0134 D0220 D0301 D0364 D0366 D0420 D0440 D0442 D0470 D0522 D0548 D0555
D0589 D0620 D0623 D0785 D0867 D1000 D1132 D1254 D1294 D1377 D1388 D1629 D1671 D1675
- 構文エラー 2 ~ セミコロンで閉じられるべき文(コロンで閉じられているなど)
(例 ¥DATA ¥EXP,1[4,8 THTL-135DEG ENGY-EMT=543KEV; Z-RES=56NODIM)
D0006 D0065 D0084 D0098 D0136 D0260 D0292 D0329 D0378 D0412 D0416 D0442 D0486 D0507
D0526 D0549 D0554 D0592 D0604 D0621 D0652 D0808 D0992 D1462 D1465 D1637 D1664 D1684
 - 構文エラー 3 ~ 左辺の書式異常 (左辺に連結子があるなど)
(例 INC-ENGY-LAB'I'=[16; ENR>=99%; QVL>=-10.0MEV'21';)
D0524 D0530 D0588 D0649 D0718 D0793 D0808 D0924 D1181 D1210 D1220 D1263
 - 構文エラー 4 ~ 右辺の書式異常 1 (未知値に X 以外使用など)
(例 QVL=-'. 'MEV; TRNSF-L=??; ERS-DET='2'KEV; SYS-ERR=<[20%];)
D0004 D0026 D0047 D0068 D0099 D0070 D0102 D0103 D0106 D0114 D0116 D0124 D0130 D0160
D0197 D0204 D0123 D0280 D0412 D0433 D0481 D0496 D0552 D0594 D0624 D0662 D0703 D0722
D0729 D0733 D0856 D0890 D1059 D1165 D1169 D1224 D1302 D1405 D1414 D1607 D1694
 - 構文エラー 5 ~ 右辺の書式異常 2 (単位のみで値がない、未知値が多い)
(例 BEAM-INTNSTY=A; SOLID-ANGL=MSR; THTL-1=DEG'6'; POL-PRJ=%;)
D0102 D0763 D0862 D0864 D1396 D1416 D1677
 - 構文エラー 6 ~ 右辺の書式異常 3 (括弧が欠落、複値を囲む括弧が欠落)
(例 DET-PARTCL=T); (197AU(27SI,PIN)X;)
D0095 D0107 D0124 D0163 D0189 D0230 D0416 D0442 D0589 D0590 D0595 D0621 D0657 D0665
D0676 D0758 D0837 D0890 D1198 D1204 D1489
 - 構文エラー 7 ~ 右辺の書式異常 4 (値が空)
(例 SPEC-FCTR=;)
D0306
 - 構文エラー 8 ~ 表中に項目行・単位行がない、単位行の後に項目行がある
D0198 D0446
 - 構文エラー 9 ~ 表中の項目行・単位行の書式異常
(例 DATA'I'-ENGY EXC.ENGY)
D0185 D0209
 - 未知の制御文コード
(例 THTL15[165DEG; CMPD; EXC-ENGY-0.0MEV; /*@3@*];)
D0029 D0068 D0206 D0416 D0499 D0548 D0549 D0563 D0638 D0661 D0667 D0783 D0416 D0589
D0808 D0915 D0953 D1220 D1433 D1667
 - 未知の左辺コード
(例 41.9ENGY-LAB=65MEV;)
D0442 D1131
 - 未知の右辺コード
(例 BEAM-INTNSTY=VAR; RSD=56C0;)
D0621 D0589
 - 必須項目の欠落
(例 D#文がない)
D0661
 - コードがあるのに使っていない
(例 REF=X'7'; -> REF=JPR/C'7;)
D1351
- 新規コード
 - JPJ/S (V 型クラス 1) : Journal of Physical Society of Japan, Supplement
 - INTNSTY-GAMMA (F 型) : Intensity of gamma transition
 - DELTA-THTL-1, DELTA-THTL-2 (F 型)
Error in Scattering angle theta of emitted particle 1 (or 2) in lab. system
 - ENGY-GAMMA-3 (F 型) : Energy of gamma ray 3

- THTL-3 (F 型) : Scattering angle theta of emitted particle 3 in lab. system
- EMT-3 (F 型) : Emitted particle 3
- WO3 (V 型、クラス 8.3) : WO3
- TiO2 (V 型、クラス 8.3) : TiO2
- Ni (V 型、クラス 8.4) : Ni
- J-PI (F 型, Obsolete) : J parity

本来は J-PTY を使うべき物理量だが、古い論文では J-PI が使われていて辞書に存在していないので、Obsolete として、辞書に追加する。

- 2JPNKNZ (V 型クラス 1) : Kanazawa Univ., Kanazawa
- 修正コード
 - ENGY-EMT-LAB-GAMMA (F 型) は現在使われていないので削除する。
- 辞書ワーキンググループについて
 - 日程は、月曜 3 時より。
 - コーディングのチェックの際にデータ評価を試みる。

4: 次回

2006 年 4 月 24 日 18:30~